

## 7.4 浅草の観音さんと寺本

### 「八幡の語り草」第2話(1頁)

浅草の観音さんについて父、房太郎から次ぎのような話を聞いた。

「おれが、東京へ万才に行った折、浅草の観音さんへお参りに行った。『お前、どこから采た。尾張か。』『はい、尾張の寺本だ。』と答えると、『この観音さんは、漁師が隅田川から網であげたと言われているが、本当は、寺本からござったそう。何でも、観音さんの御本体に寺本と書いてあるそう。』と。

それから、西平井の早川正義さんから次ぎの話を聞いた。

おれもおじいさんから聞いたが、平井から浅草へ行った人が、栖光庵にあった観音さんは、御利益のある観音さんだから、江戸の浅草へまつつたらよくはやるだろうとこっそり持って行ったと。

この二つの話を、朝倉の山口喜一さんに話したら、

「それは初耳だが真実性がある。それというのは、徳川さんの蓬左文庫に、当地方の古文書があるということで、調べに行ったが、徳川さんが天下を取って間もなく、尾張公は養父、寺本、朝倉から、若い優秀な漁師を集め、江戸の浅草方面に住まわせ、隅田川や江戸湾で漁をさせられた。そうした折に、あるいはそうしたことがあったかも知れんなあ。」と、言っていた。

昭和五十年頃と思うが、中日新聞に、浅草観音さんのことが書かれていた。その記事の中に、浅草観音には、寺本堂という六角堂があった。この堂は、素晴らしい名工の作であったが、残念ながら、大正十二年の大震災で焼失してしまい今はないと。